

JUNGI DO

1898 = 1993

1998年は創立100周年です

CONTENTS

巻頭エッセー	1
平成5年度総会報告①	1
新役員決まる!	2
周年記念同窓会案内	2
同窓会活動報告	3
同窓会費納入のお願い	3
平成5年度総会報告②	3
特集・30周年記念同窓会の思い出	4・5
周年記念同窓会	4・5
恩師訪問	6
OB近況報告	7
膳所高NEWS	8
母校拝見	8

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人/宇野 勝
 発行所/滋賀県立膳所高等学校同窓会
 大津市膳所 2-11-1 TEL 0775-23-2304
 発行日/平成5年10月31日
 編集人/広報部会・谷口啓司
 印刷/有限会社服部印刷所

VOL. 3

巻頭エッセー

断想

昭和24年卒業(膳中47回) 梅沢 節男



3年前、大津プリンスホテルで、我々の学年の40周年記念同期会が行われた。その時、恩師横井正治先生(元膳所高校長)と偶々テーブルを同じくさせて戴いた。髪は白くなられたが、お若い頃のハンサムな温容そのままの先生と、久し振りに欲談のひと時を過ごすことができた。その後いくばくもなく、或る日友人からの電話で、「先生が昨日亡くなられた」と知らされた時、言葉が失った。先生から、我々は西洋史を教わった。30周年の時の記念誌に寄稿された文章では、ご自身の戦中戦後が淡々と記され、「確かに混乱期、苦勞の連続であったであろう青春時代が、今ふり返ってみると諸君自身の大きな人間の成長への心の糧となつてゐるのではなからうか」と書いておられる。同期会の席で、今日の日本の発展の遠い源は、わが国の近世の歴史に求められるのではないか、21世紀は今もまだと日本にとってつらい時代になるのではないか、などと私が申し上げたところ、先生は頷いておられた。そのつらい時代の幕が、今、早々と上がり始めた感なくもない。いずれ、直面しなければならぬ問題が山積している訳で、早い時期に備えに入ること

これからの日本は、もつと外に目を見開くべきだという意見や、逆に欧米にキャッチアップする時代は終わり、もつと内に目を向けるべきだという意見もある。他の国と互いに尊敬と信頼の関係を保つたためにも、恐らくこの両者、つまり複眼を必要とするのではないか。ただし、経済の領域に限って言えば、特に他の国との関係では、メンタルな文化の相異を持ち出すことは時に有害ですらある。このことを言いたくてもうずうずしている外国人は大勢いるからである。経済の共通語は公正自由な市場原理である。これからの世代の豊かな創造力を実らせるためにもこの原理が有効に作動していることが必須の条件のひとつであろう。

は良い事かもしれないのである。



略歴
 ・昭和6年生まれ
 ・学歴 膳所中学校、第三高等学校、京都大学法学部
 ・職歴 大蔵省主計局主計官、大阪国税局長、主税局長、国税庁長官、公正取引委員長
 ・現在 日本総合研究所 最高顧問

いであつた



滋賀県立膳所高等学校同窓会員の皆様方には、その後もご健勝でご清栄のことと拝察致します。

過般5月9日に、本年度同窓会総会を大津市生涯学習センターで開催、来たる開校100周年の布石として組織の活性化、財政基盤の確立のため各部会組織の活発な活動状況の報告、また会則の部分改正等いずれも満場一致で承認いただきました。

会長 宇野 勝

会長としてこの点厚く御礼申し上げます。なお、財政基盤の確立については、不十分の感を持たざるを得ません、会員各位のご理解をお願いするものであります。

また、平成10年5月13日が膳所高開校100年に当たり、記念事業推進の組織化のため学校側としても校内職員による企画準備委員会を2学期より発足することになり、同窓会でもプロジェクトチームを組織し準備を進めることになりました。同窓会会員各位の一層のご理解とご協力をお願い致します。

会費納入ありがとうございました。

同窓会会費納入状況

今年4月から納入いただいております、平成5年度の同窓会会費は、平成5年8月末日現在、

総額 **14,715,000円**

に達しました。

会員の皆様のご理解に感謝すると共に、ますますのご協力をお願いいたします。

今回、振替用紙を同封させていただいた方は今年度会費が未納となっています。ご納入いただくようお願いします。

くわしくは3ページをご覧ください。

(財務部会)

平成5年度 総会報告

①

平成5年度同窓会総会は、今年も5月の第二日曜日(9日)に、昨年と同じ大津市生涯学習センター大ホールに於いて開催されました。今年と同窓会報を通して初めて全会員の皆様に総会のお知らせをさせていただきましたが、その甲斐があつてか昨年を上回る180余名のご出席を得、例年にならぬ華やいだ雰囲気の中での総会となりました。誠に思われます。会には宇野敏一副会長の開会宣言に続いて、校歌斉唱、物故者への黙祷を捧げた後、宇野勝会長、南池宜樹校長のご挨拶をいただきました。次いで、10年以上勤続職員2名に感謝状が贈呈され、会場からも温かい拍手が送られていました。その後、飯田勝一常任理事長を議長に選出して議事に移り、会務報告、会計報告などが満場一致の拍手をもって承認されました。今回は会則第6条の部分改正に関する提案がなされ、これも満場一致で採択されました。(第5面をご参照ください。)熱心なご発言の中に、同窓会に対する深い思いを感じさせられる、有意義な議論であつたと思ひます。

議事に引き続き恒例となつております講演へお招きしました、今年東1回ご卒業の竹林節治氏をお招きして、「弁護士の世界あれこれ」と題してお話いただきました。竹林氏は日本弁護士会副会長、近畿弁護士会会長などを務めてこられ、その豊かな経験に基づくお話はたいへん興味深いものでした。

今年の総会は、出席者の数もさることながら、その年代の幅広さにおいてもまた特筆すべき会となりました。膳中23回にご卒業の大先輩お2方から、昨年3月に卒業したばかりの新会員まで、さまざまな年代の方が一緒になって語り合う場として、たいへん意義深い会になったと言えましょう。どうかこの流れを大切に、来年度はより多くの皆様のご出席をお願い致します。(西川)

新役員決まる!

ひんがしあじろ。



副会長 宇野 敏一
昭和18年卒業(膳所高41回)

私の膳所中時代は、日中戦争、太平洋戦争と続く戦時下ではありましたが、立派な先生方に恵まれ、気のおけない多くの親友を得た楽しい5年間でした。卒業後50年、同窓の方々に思わぬところで色々お世話になりました。



副会長 岡角 憲次
昭和25年卒業(大高1回)

この度、再任を受けました岡角です。今後共宜しくお付き合いの程お願いいたします。地域的・職域的・学年別・クラブOB等々で皆様が所属されている同窓会組織の現状をニュースして下さい。



副会長 上野 滋子
昭和29年卒業(大津東2回)

学校創立100周年を5年後に控え、同窓会役員は、本年度の選考委員の方々によって、総務部をはじめ各部の担当者として選ばれた。各部ごとに活動を開始しているが、今言えることは、担当している者だけでなく、老若を問わず同窓会全員がいま一度同窓会に関心をよせてくださるようお願いいたします。



副会長 石川 孝
昭和30年卒業(大津東3回)

宇野会長のもとに同窓会組織が改革され、懸案であった歳入の確保についても年会費制が承認されて日々活動が軌道に乗りつつあります。創立100周年が間近に迫っています。



副会長 阪田 順
昭和35年卒業(膳所高8回)

再び副会長の末席を汚すことになりました。事業部会担当という重責ではありますが、先輩後輩の礼を失することなく小生なりに務めたいと思います。温かいご支援をよろしく願います。



副会長 松平 智康
昭和39年卒業(膳所高12回)

開校100周年まであと5年、同窓会活動もここ数年、組織の整理と実務、会費の徴収同窓会報の発行、100周年に向かつての事業整理や企画、増々同窓会はその役目が重要になってまいりました。一番若い副会長として、活動する同窓会の一助となればと願います。



会計 東郷 利夫
昭和29年卒業(大津東2回)

母校創立100周年を5年後に控え、同窓会各部会では積極的な取り組みが行われております。また、こうした同窓会活動の財政的基盤の強化のため、昨年度から新会費制度が導入されました。これらの新しい状況に対応しつつ、同窓会会計の適正な運営と長期的安定性の保持に努めて参ります。どうか会員各位のご支持と、会費へのご協力をお願い致します。



監事 沢井 すみ子
昭和26年卒業(大高2回)

平成5年度総会に於きまして、100周年を迎える気脈の通じた役員体制として留任で新年度のスタートをいたしました。それぞれの立場で自分の持っているパワーを発揮し、また役員としての連帯感と和をもって、会員のみならずご協力を頂きながら、来るべき100周年に向かって歩みたいと思っております。



常任理事 飯田 勝一
昭和18年卒業(膳所高41回)

この度、膳所高等学校同窓会監事という大役を仰せつかり身の引締まる思いがします。いよいよ、近づきつつある母校創立100周年に当たって財布の紐を握りしめた監査を行い、母校の発展を希い、貢献したいと思っております。



常任理事 飯田 勝一
昭和18年卒業(膳所高41回)

もとよりその器ではございませんが常任理事長をお引き受けして2期目となります。ご承知のとおり平成10年5月に創立100周年を迎えます。特に、財務を重点とした、しっかりとした基盤を構築したいとお願いいたしております。会員各位のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



総務部会長 泉谷 千秋
昭和29年卒業(大津東2回)

私どもにとって母校はいつまでもかけがえない懐かしいものであり、皆さまも卒業されました後同窓のよみがどんなに深いつながりを持つものであるかよくご承知のことと思います。同窓会を強化し、活用しようと計画を立て皆さまのご賛同、ご協力をいただき深く感謝しております。皆さまからご協力いたします。皆さまからご協力いたします。



財務部会長 高城 宗求
昭和31年卒業(大津東4回)

平成10年に創立100周年を迎えるにあたり同窓会活動も日増しに熱をおびてまいりました。伝統ある膳所高同窓会をより活性化すべく、会則の全面改正と並行する形で年費制の導入を思い切って打ち出しましたところ、会員の皆様よりご快諾をいただき、早速にご入金いただきました。誠にありがとうございます。今後共同同窓会の財政基盤確立に深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



広報部会長 谷口 啓司
昭和37年卒業(膳所高10回)

創立100周年を控え、年2回の同窓会報「JUNGINGIDO」の発行という大変な仕事を仰せつかりました。熱心に活動していただく広報部会の皆さまと一緒にがんばりたいと思っております。また一緒に「JUNGINGIDO」づくりと同窓会会員各位の積極的なご協力をよろしくお願い致します。



事業部会長 織田 勝美
昭和29年卒業(大津東2回)

母校創立100周年がもう間近に迫ってまいりました。事業部会も人事の刷新を計り、同窓会活動の活性化に向けて真剣に取り組むを始めました。膳所高(膳所中)という輝かしい伝統のある校風とあの懐かしい校舎で共に笑い、共に汗を流した多感な青春の一夏を思い出していただき、共に汗を流した事実と発展に会員皆様の温かいご協力をよろしくお願い申し上げます。



組織部会長 今市 信夫
昭和28年卒業(大津東1回)

平成3年の半ば、それまでの活動の在り方を振り返り、思い切った改正をしようとの役員会の合意により5部会組織が誕生、各部で自主的な活動が展開されてきました。当部会では同窓会活動をより活性化させるために、地域・職域等の組織が整い、協力体制が計られるよう活動を続ける方針です。

周年同窓会 予告

多数のご出席を
お待ちしております。
本欄を有効に
お使いください

■昭和18年卒業(膳所高41回)
卒業50周年記念同窓会
・平成5年11月21日(日) 11時開会
・場所 三井寺円満院
・会費 200,000円

■昭和25年卒業(大高1回)
幹事 飯田勝一、尾松謙
TEL0775・22・3210
(欠席者は5,000円、物故者の法要のためのお布施)

■昭和26年卒業(大高2回)
平成5年11月13日(土) 14日(日) 鎌倉
世話人 徳田良弘・新井睦子

■昭和28年卒業(大津東1回)
卒業40周年総会
平成5年11月14日(日) 正午開会
JR草津駅前エントピアホテル
幹事代表 西村政之
会費 15,000円
女 13,000円

■昭和32年卒業(膳所高5回)
卒業36周年記念同窓会
平成5年11月14日(日) ロイヤルオークホテル
代表世話人 三宅忠義
会費 12,0775・37・4965
男 12,000円
女 10,000円

■昭和33年卒業(膳所高6回)
卒業35周年記念同窓会
平成5年11月14日(日) 大津プリンスホテル
事務局 山極元信
TEL0775・25・5789
会費 16,000円

■「お名前広告」募集しています。
掲載内容/卒業年度・卒業回
勤務先・お名前・住所・TEL/一枠一万円
お申し込みは同窓会広報部会まで。

・広報部会事務局
京都市山科区上花山久保町10-6 宇野ビル5F-B
谷口デザイン事務所内
TEL 075・501・5108
FAX 075・581・9174

同窓会活動報告

100周年にむけてみなさまのご協力を!

会費未納の方へ

**滋賀県立膳所高等学校同窓会
平成5年度年会費納入のお願い**

同窓会会員の皆様には、同窓会活動にお力添えをいただきまして誠にありがとうございます。

さて、同窓会費の納入をお願いするようになって半年余りがたちました。昨年末から本年3月にかけて平成4年度会費、本年4月以降は平成5年度会費を納入していただいておりますが、両年度分とも順調に集まりつつあり、皆様のご理解とご協力に深く感謝をいたしております。一方で、説明不足のためにご迷惑をおかけしていることも多いように思いますので、改めてご確認の上、今後とも重ねてご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

記

〔会費額〕	年会費	3,000円
	5年会費	15,000円
	10年会費	30,000円

- ・いずれかの会費を選択のうえ納入していただきますが、誠に恐縮ではございますが、できる限り、5年または10年会費の納入をお願い申し上げます。
- ・納入の際には端数のないよう十分ご注意ください。
- ・納入していただいた会費は全てその年度からの会費として扱わせていただきます。
- ・新卒の同窓生は、卒業後4年間は卒業時に納入していただく入会金3,000円以外の会費はいただきません。

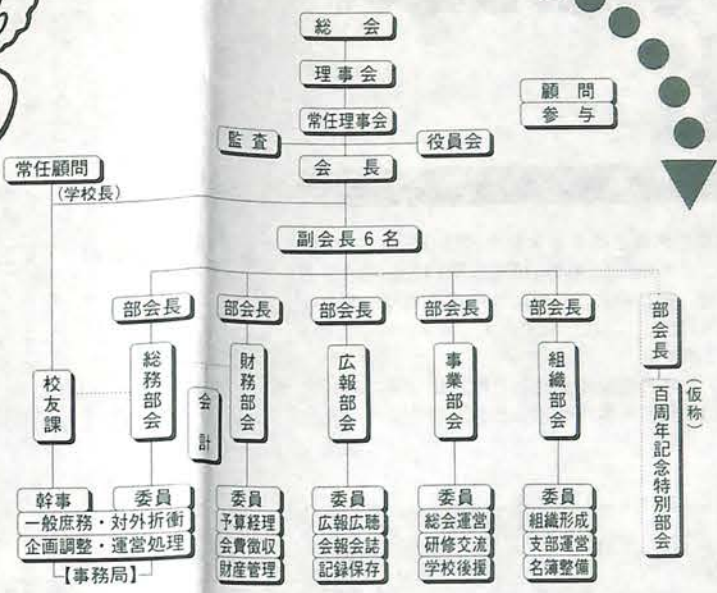
〔納入機関〕 (振替用紙は共通です。)

郵便局	京1 30378		
銀行	滋賀銀行	本店 (110)	普 913381
	びわこ銀行	本店 (111)	普 335940

いずれも名義は、
滋賀県立膳所高等学校同窓会会長 宇野 勝 です。
※同窓会からの領収書は発行していませんのでご了承ください。



〔機構〕 常任顧問 (学校長)



〔会議〕



平成5年度膳所高等学校同窓会役員名簿

総会長	宇野 勝 (中35)
副会長	宇野 敏一 (中41)
	岡角 憲次 (大1)
	上野 滋子 (東2)
	石川 孝 (東3)
	飯田 順 (東8)
	松平 智康 (東12)
	東郷 利夫 (東2)
	沢井 すみ子 (東2)
	百岳 光好 (通32)
	飯田 勝一 (中41)
	泉谷 千秋 (東2)
	高城 宗求 (東4)
	谷口 啓司 (東10)
	織田 勝美 (東2)
	今市 信夫 (東1)

平成5年度 総会報告

会則の部分改正について

平成4年度の総会で全面改正となった新会則の条文中に、支部組織という語句が用いられた点について、各地膳所高校の誕生に至る歴史的背景や、互いに独自の組織としての尊厳性を認め合う意味から、支部という表現は不適切であるとの指摘がなされ、この語句を消去し、第1章の第6条を次のように部分改正する案が認められました。

第1章 総則

第6条 (組織) 本会に、常任理事会の承認を経て、地域・職域等の組織を置くことができる。

平成5年度定年総会を顧みて

総会開催から凡そ1ヶ月後、100周年に向かつてより充実した盛会をめざすことを合意事項として、記憶の鮮明なうちに実質的な反省を行いたいとの役員各位のご熱意により、次のような総括反省がなされました。

1、開催日時について
毎年の5月2日(日)に実施する慣例を見直し、大型連休明け直後の脱力感や準備面での支障、行楽・慶祝シーズンの多忙さ等のマイナス面が出席率にも影響しているとして、「実施日を1、2週間後に遅らせてはどうか」との意見が出されましたが、開校記念日の5月13日に近い日という由緒や多数先進の伝統文化をよりよく継承し、発展させることの大切さという観点から、現行通りに備着しました。

2、会場変更の検討
昨年度に引き続き、大津市生涯学習センター大ホールで実施されましたが、他に、プリンスホテルを対象に含め、交通の便、経費、施設設備、懇親会への移行の便利さ等の比較検討を慎重に継続して行なうため、決定を見送る形になりました。

3、案内状発送の時期と確認ハガキについて
広報部を中心に、年間の会報発刊時期を検討し、総会1ヶ月前までに案内状と同時に発刊できるように広報活動を進め、総会の出席率を高めることへの協力及び経費削減のための協力について、共同体としての検討が進められました。また、ハガキを料金後納郵便に切り替えて、郵送料の無駄を排することが決められました。

4、その他
総会・懇親会の運営上の問題点、内容上の問題点、役員体制等、多方面に亘り、実質的な話し合いが進められました。特に、若年層の出席者が少ないこと、全体的に、出席率が低いこと等について、各学年の理事、常任理事等の役員中心に、1人が1人に連絡し合せて多数で集うという呼び掛け方式の体制化が確認されました。

部長連絡会について

去る7月10日(土)、部会発足来初めて、5つの部会間の連絡調整を計る場として部会長会が開かれ、会報3号の発刊に向かつての題材を中心に、次のような事項について話し合われました。

- (1) 総会の総括反省について (主として総務部会)
- (2) 100周年記念バス研修会の概要報告と当面の準備について (事業部会)
- (3) 会報3号の編集計画と寄稿や経費面での協力について (広報部会)
- (4) 会費納入に関する問題点と今後の対応策について (財務部会)
- (5) 理事、常任理事決定への手立てについて (組織部会)
- (6) その他事務連絡 (事務局)

卒業生文庫

前号でもお知らせいたしましたように、小林博氏からの「母校に卒業生文庫を新設する運動」の呼びかけに、続々と会員の著書が寄贈されつつあります。前号以降にご寄贈いただいたものをご紹介しますと共に、会員の皆様の一層のご協力をお願いいたします。

(卒業生文庫寄贈目録) (敬称略)

- 大塚虹水 「滋賀の百景」
- 佐伯 勇 「運をつかむ」
- 神崎宣武 「経営の風土学 佐伯勇資料集」
- 森寺 保 「鬼の念佛」
- 大杉邦三 「会議英語」
- 宇野茂樹 「近江宗教彫刻論」
- 三橋時雄 「戦後日本農業の史的展開」
- 三橋時雄 「日本農業経営史の研究」
- 三橋時雄 「隠岐牧畑の歴史的研究」
- 岡 光男 「岸辺に 娘三橋節子」他多数
- 三好正喜 「近世の日本農業 三橋時雄先生古希記念論文集」

事務局日誌

- 4・14 会計監査
- 4・20 新役員選考委員会 第1回役員会
- 5・9 平成5年度総会
- 5・28 役員団有志バス研修会 彦根東高校・八幡商業高校訪問 (100周年記念事業に向けて)
- 6・17 部会長会
- 7・10 第2回役員会
- 8・6 広報部会
- 9・17 広報部会
- 9・25 第3回役員会



昭和23年卒業 (膳中46回)

株式会社イーエスアイ
代表取締役 草野 一学
東京都港区赤坂9-5-26 赤坂ハイツ503
TEL 03-3479-0918

昭和24年卒業 (旧膳)

日本フエルト株式会社
専務取締役 山村 寛彦
東京都千代田区丸の内2-2-2
TEL 03-3213-5611

30周年記念同窓会 (大津高1回)

昭和25年卒業、高校卒業の第1回生である事を記念し、且、後輩の良き道標となる様に、と歴史的使命に燃えて盛大にその30周年記念事業を実施した。

30周年記念同窓会 (大津高2回)

昭和26年卒は膳所高26月7日に現膳所ホテルで会を開いた。膳所高先輩のタレント中村純一氏(現参議院議員)を招いて、パーソナリティ談義をお聞きした。

30周年記念同窓会 (大津東1回)

“今年40周年来、還暦の年” 私達は、大津東高校の第1回卒業生であるが、戦後の新制中学、戦中の小学校が国民学校になったのも私達の入学時からという学制改革の落とし子といえる。

30周年記念同窓会 (大津東4回)

昭和31年卒業、恵まれた昭和61年10月5日正午より、琵琶湖ホテル瑞瑠の間に、小笠原校長をはじめ、恩師31名をお迎えし、190名の同期生の参加が盛大に行われました。

周年記念同窓会

膳中37回同窓会

例年の如く、今年は大津市在住者の当番で3月2日12時から大谷の卒業生一かへんで開催しました。吾等昭和14年3月卒業生148名、現在生存者76名(生存率51%)で、当日出席者は95名。



30周年記念同窓会 (大津高3回)

30周年を記念しての同窓会はいない。卒業後、昭和62年8月20日、大阪ヒルトンホテルにて237名の出席で開催されました。

35周年記念同窓会 (大津東3回)

遅刻なし、早退なし。進行はスケジューリング通り、こんな会合を催してみたいと常々考えていた幹事役の1人である。



30周年記念同窓会 (膳所高6回)

昭和63年10月30日(日)琵琶湖ホテル瑞瑠の間で17名の恩師、琵琶湖ホテルの間で10名の恩師を、卒業後、初めての同窓会を盛大に開催されました。



30周年記念同窓会 (膳所高7回)

平成元年9月膳所高第7回卒業、昭和34年の同窓会を琵琶湖ホテルで開催。西村明校長、岩崎栄三同窓会長、恩師24人、同窓生168人出席の大盛況であった。



30周年記念同窓会 (膳所高8回)

卒業後初めての同窓会を30年目の平成2年9月16日大津プリンスホテルにて開催。同窓生210名、恩師20名の参加のもと盛大に開催した。

〈膳所高伝統〉 30周年記念同窓会の思い出

本校卒業生の中で、卒業後30周年を記念して卒業30周年記念同窓会が開催されてきました。新制高校になって、昭和25年卒業の皆さんに始まり、以後、毎年、伝統的に受け継がれ、今年も昭和38年(膳所高第11回)卒の皆さんが9月に開催されました。



30周年記念同窓会 (膳所高9回)

昭和36年卒業生は、卒業30周年を記念し、平成3年9月22日(日)大津プリンスホテルにて、恩師16名、同期生165名が集い、盛大に同窓会を開催することができた。

30周年記念同窓会 (膳所高10回)

快晴に恵まれた平成4年11月29日、琵琶湖ホテルにて、南池校長をはじめ、恩師、ご来賓17名をお迎えし、211名の卒業生の参加で盛大に行なわれました。



昭和35年卒業(膳所高8回) 卒業後初めての同窓会を30年目の平成2年9月16日大津プリンスホテルにて開催。同窓生210名、恩師20名の参加のもと盛大に開催した。

30周年記念同窓会 (膳所高11回)

“あの日にもどろろ”のテーマのもと、膳所高等学校第11回(昭和38年卒)卒業30周年記念同窓会が、9月12日(日)濱田川畔、ロイヤルオークホテルにおいて、同窓生225名、恩師16名の参加を得て、賑やかに開催された。

30周年記念同窓会 (膳所高12回)

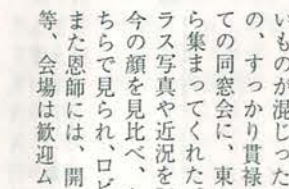
昭和39年卒業(膳所高11回) 平成5年8月発行いたしました。当日の記念アルバムも、懐かしさと楽しさのあまり「今後5年ごとの開催」を約束して短い一日が終わりました。

45周年記念同窓会 (膳中46回)

膳中46回(昭和23年)卒業45周年記念同窓会を去る9月18日開催。集ったのは70名であつたが久しぶりの顔も見え、ネームプレートと顔を見比べながら思い出せない人もいた。



昭和33年卒業(膳所高9回) 昭和36年卒業生は、卒業30周年を記念し、平成3年9月22日(日)大津プリンスホテルにて、恩師16名、同期生165名が集い、盛大に同窓会を開催することができた。



30周年記念同窓会 (膳所高9回) 昭和36年卒業生は、卒業30周年を記念し、平成3年9月22日(日)大津プリンスホテルにて、恩師16名、同期生165名が集い、盛大に同窓会を開催することができた。



30周年記念同窓会 (膳所高11回) “あの日にもどろろ”のテーマのもと、膳所高等学校第11回(昭和38年卒)卒業30周年記念同窓会が、9月12日(日)濱田川畔、ロイヤルオークホテルにおいて、同窓生225名、恩師16名の参加を得て、賑やかに開催された。



膳中46回(昭和23年)卒業45周年記念同窓会を去る9月18日開催。集ったのは70名であつたが久しぶりの顔も見え、ネームプレートと顔を見比べながら思い出せない人もいた。

20周年記念同窓会 (膳所高21回)

「学友はいつになってもいいものです。舌、歳を経れば経る程いものですよ。」 平成5年8月14日大津市瀬田ロイヤルオークホテルにて、松山義夫元学校長、南池宣樹現学校長を初め恩師9名をお迎えし、第21回卒の卒業20周年記念同窓会を開催しました。



膳中46回(昭和23年)卒業45周年記念同窓会を去る9月18日開催。集ったのは70名であつたが久しぶりの顔も見え、ネームプレートと顔を見比べながら思い出せない人もいた。



膳中46回(昭和23年)卒業45周年記念同窓会を去る9月18日開催。集ったのは70名であつたが久しぶりの顔も見え、ネームプレートと顔を見比べながら思い出せない人もいた。

恩師訪問

三輪敏子先生

わがふるさと膳所高校。



三輪敏子先生略歴
 ・昭和16年3月
 ・帝国女子薬学専門学校卒業
 ・京都帝国大医学部薬学科
 ・有機薬化学教室嘱託
 ・山ノ内製薬山科研究所研究員
 ・滋賀県立膳所高校教諭
 ・華頂女子高校講師

秋の気配がただよう9月3日、膳所高校に永く在職された三輪敏子先生に、先生のお宅からほど近い大津市生涯学習センターでお出会いし、なつかしいお話を聞かせていただきました。

先生が膳所高校にお勤めになられたのはいつ頃でしょうか。

「昭和25年、ちょうど学制改革で旧制中学、女学校が合併して17クラスもあった頃です。2年生の化学を3クラスももったのが初めてです。退職したのは昭和55年で、どこへもかわらず30年間勤めました。」

膳所高校に職員として勤めるようになったきっかけは、京大の恩師に教職をとるようすすめられ、教員資格審査の申請を知りたいため、膳所高校を訪ねました。女学校の恩師、木下先生から教頭先生を通じて初めて林校長先生にお目にかかりました。その時、林校長先生から「それであなたは教師になりたいと思いませんか」と聞かれて何故かすぐ「はい」と答えて、自分でもびびりしたことを思い出します。」

この時代に女性が理科系を教えられるのは珍しかったのではないのでしょうか。

「そうです。生物では廣田順子先生が東校舎におられました。膳所の理科の先生は、皆いい人で面白い方ばかりでした。」

馬杉先生のひきいておられる理科の一員に加えていただきました。馬杉先生の理科は、自由で腕白ですが温かみがあり生徒から大変人気があったようです。膳所高校に勤めていてよかったこと、特に印象的なことは。

「先生方に守っていただいたことです。新任の頃は突然授業の見学に来られ、授業をしくじっても、先生にかばっていただいたし、生徒もかばってくれました。30年間、いやでやめたいと思ったことは、一度もありません。」

林校長先生が授業をしつかりやってく下さいという



ことでしたので、先生も追いつめられ、やらなくちゃという気になったと思います。

膳所高校教員最後の3月、日本化学会100年祭がアメリカ化学会と共催でハワイで行われた時、頼まれて15分くらい研究発表をいたしました。その時、「彼女は日本最大の湖、びわこのほとりにある日本の名門膳所高校の先生です」と紹介していただいて、面目をほどこしました。」

今の膳所高校に望まれることは。

「膳所の学生に限らず今の生徒は、勉強ができないとどこへ習いに行こうかと思っている。八耳先生は、「生徒に勉強せよ、勉強せよと言るのはやめや。馬でも牛でも、川のそばまでは連れて行ける。水は飲もうと思わないと飲めない。口の中に流し込んでおはき出してしまおう」と言われた。」

今の生徒は、すぐ誰かが助けてくれると思う。ちょっと手を引いてやるのはいいが、それを過剰に教えてしまおう。勉強は自分でやるものだと思う。

昔の生徒は腕白であるけれども、運動もやるし勉強もやる。初めは先生をいじめてやろうと質問をしてくるが、なかなか手応えのある質問をしてきました。それだけに、こちらもしつかり下調べをしておかなくてはならなかったのです。

ご趣味は。



「強いて言うとうと写真を撮ることでしようかしら。絵を見るのは好きですが、描くことは駄目です。小説なら書いてみようかなと思っています。好きな学界に入っ



ていて、月に1度くらい講演を聞きに行っております。膳所高校や薬大の同窓会からのお誘いが多くてよく出かけています。みなさんから、毎日なんでもこんなに忙しいのかと、電話をかけても居ないと言われています。別に住んでいる3人の孫のお相手に時間をとられていいんですよ。」

当時は、今より少し太られて、ベレー帽をかぶられ、ハイカラな先生という印象でした。今日も素敵なお帽子とお洋服で、いつまでも若々しい先生でした。昔なつかしい話がつきず、私も一緒に楽しい時間を過ごさせていただきました。いつまでもお元気で活躍くださることをお祈りしております。(宮崎)

同窓生投稿欄

喜多希見子 昭和24年卒業(旧大津)

夏のうぐいす夫の暮と相々傘
 京の月連れてびわ湖の吾が家まで
 秋風をつかまえてたくてスカーフ巻く

国松哲男 昭和15年卒業(膳中38回)

昭和10年に入学し、昭和15年に卒業の5年間の膳中時代の思い出が58年経た現在、遺囑状を讀ませていただき、昨日の如く懐かしく憶えています。当時の恩師も殆どが他界され、クラスメイトも戦争もあり、半分以上が故人となりました。「永遠の青春は膳中にあった」と思うこの頃であります。感謝いたしております。

深尾 修 昭和26年卒業(大高2回)

林浩校長が化学専門の方であったこと、正しくそうであったのにすっかり忘れていました。忘恩ではないのですが、勿体無いこと存じます。

橋谷静子(旧姓藤沢) 昭和29年卒業(大津東2回)

この度は、同窓会報をお届け下さりましてありがとうございます。充実した内容で編集委員の方々のご努力に頭が下がります。特に、「母なる琵琶湖を語る」は私もBRSに属していた関係もあり、大変興味深、懐かしく読ませていただきました。BRSの同窓会などございましたら是非懐かしい先生方、友人とお会いしたく存じます。

●この投稿欄をご自由にお使いください。

予告

1964 = 高 = 1994

昭和39年(膳所高12回)卒業30周年記念同窓会

昭和39年卒業生の皆さん、来年は30周年です。多数ご出席ください。

JUNGIDO
 第4号発行予定
 平成6年4月!

同窓会にかかわる情報をお寄せください。
 ■同窓会広報部会まで

安田公美さん

昭和63年卒業（膳所高36回）

膳所高校を卒業して、東京での生活を始めてから、早くも5年と半年が経ちます。何も変わっていないと思っていたら、最近はこちらはと耳にする同級生の結婚の噂に、私一人が呑気に昼寝をしているうちに周りがすっかり変わってしまった、という様な、不思議な淋しさを感じます。しかし、たまに郷里に帰省した折に、街の人の話すコトコテの関西弁に何となく付いていけなかったり、慣れてきた筈のバスの待ち時間が妙に長く感じられたりと、すっかり都会のテンポに馴染んでしまっている自分に気付く時、私の中にもちゃんと時間は流れたのだ、と感じるのです。

大学に入って最初の2年間は、とても忙しく過ごしました。2年生の秋に、厳しい進路振分けがあり、毎期の試験で気を抜くことが許されず、「大学生は遊んでいけばよい」という、暗黙の社会常識は、私の場合、見事に打ち砕かれたのです。それでも、サークル活動では、様々なタイプの人と知り合いになれたし、アルバイトも色々経験して、社会の厳しさに触れることもあり、バラエティーに富んだ2年間でした。

その後、数学科に進学し、多くのすごい頭脳に囲まれ気後れを感じながらも、運良く大学院にも進むことができ、現在に至ります。今は、「確率論の整数論への応用」という、比較的新手の分野を専門としています。今後は、できれば博士課程に進んで研究していきたいと考えています。しかし、研究職のポストは少なく、何年すれば就職できるか皆目見当が付かず、また、仮に就職できても、女性が仕事を続けていくには、様々な困難があるように思われ、それを思うと胸ふさぐこともしばしばです。でも、一人の人間が一生のうちにできることはそれほど多くはないのですし、社会全体から見れば、本当にささやかな役割であっても、一つの立場で精一杯頑張る人になりたいと思います。

●プロフィール

安田 公美
生年月日/昭和44年8月11日
略歴/東京大学理学部数学科卒
東京大学大学院数理科学研究科修士課程
2年在学中
現住所/東京都港区



あの人は今…。

近況 OB 報告



一開業医の歩み

大西豊彦さん

昭和15年卒業（膳中26回）

父（膳中11回）そして私（膳中37回）と、大津市で65年位医院を開業しています。地域の方々と、共に齢をとりながらお互いに病気を通じてのふれ合い、おりなす哀愁は医療の一つの原点だと思っています。

敗戦から今日までの医学の驚異的な進歩、対応する医療の仕組みの変遷をつぶさに私も体験してきました。保健・福祉・教育との関連について、その時々多くの立場の人々が見せた切り口・提言を私も考えぬきました。地域に根をおろした開業医として私の30歳代から70歳までの生き方に関することでした。一人の医師のできることに限界があり、志を同じくする多くの職種の方々とチームづくりを考えるようになりました。

1 学童の心臓病管理

循環器病学を大学で修めた私は昭和34年大津で父のあとを継ぎ、すぐ学童の心臓病管理にとり組みました。医師会・行政・学校保健関係者との全市の活動は全国で初めての試みでした。やがて滋賀県、他府県に拡がりました。この30年間検診・管理の内容は当然深まっています。先天性心疾患の外科手術、弁膜症の対応、次いで不整脈・心筋症を含む学童の突然死の問題、川崎病の心後遺症、小児成人病の予防と、地域で勉強できたのは幸運でした。皆と一緒に、何よりも学童諸君との付き合いの中で彼等が時に自分の命とひきかえに私達に教え、残してくれた貴重な情報・経験を私は決して忘れていません。

2 重症心身障害児・者の療育

故糸賀一雄先生等による近江学園（昭和21年設立）での障害児の療育は戦後の日本の障害児対策の原点でした。その内容・足どりは詳述できませんが、昭和38年第一びわこ学園が大津市小関に設立されるまでに至りました。故岡崎英彦理事長兼園長に頼まれ、私も週2回、午後と夜の診察のあと1日2回びわこ学園に通いました。医療だけでなくむしろ生活を基本にした日常の組立て、重症児個人が尊重され、成長発達して行く姿を私もすべての職員と息ながく見守ってきました。30年のふれ合いの中で彼等の存在感をしっかりと感じています。岡崎先生急逝のあと、社会福祉法人びわこ学園理事長として、その将来構想ことに学園の草津への移転・新築の難問に数年間努力したことが私にとって最後の仕事になりました。再び開業医に専心できるのは多数の方々のご援助のおかげと厚くお礼申し上げます。

●プロフィール

大西 豊彦
生年月日/大正10年8月18日
略歴/膳所中、旧制三高、京都帝国大学医学部卒。
大津市医師会心臓検診班班長など。
社会福祉法人びわこ学園理事・理事長・名誉会長。
滋賀県心身障害者対策協議会会長など。
日本医師会最高優功労賞。文部・厚生大臣表彰など。
読売新聞第14回医療功労賞、中日新聞社社会功労賞、京都新聞第29回社会賞。
現住所/滋賀県大津市中央三丁目1-16 大西医院



がんばってます！

昭和23年卒業 (膳中46回) 卒業生一同	昭和34年卒業(膳所高7回) 株式会社 中島貨物店 代表取締役 大津市大門通2-12 TEL 0775-22-8270 中島清二郎	昭和34年卒業(膳所高7回) 近江水産株式会社 代表取締役 大津市瀬田大江町59-1 TEL 0775-43-8377 橋本久	昭和34年卒業(膳所高7回) 建設株式会社 守(まもる) 代表取締役 草津市東矢倉3丁目41-18 TEL 0775-62-3244 守野清六	昭和34年卒業(膳所高7回) 株式会社 山口庄 代表取締役 大津市中央区博労町2丁目6-4中島ビル402 TEL 06-251-696152 山口修平	昭和34年卒業(膳所高7回) 藤屋内匠(ふじやたくみ) 和菓子13代店主 代表取締役 大津市中央3丁目2-28 TEL 0775-22-3173 遠藤仁兵衛	昭和34年卒業(膳所高7回) 日の出測量設計株式会社 代表取締役 栗太部栗東町小野441-3 TEL 075-53-0377 谷口功	昭和27年卒業(大津高3回) 飛騨高山印籠美術館 代表取締役社長 京都市東山区大和路通新橋上る TEL 075-561-5676 柳重彦	昭和24年卒業(旧膳高) サッポロワイン株式会社 代表取締役社長 東京都渋谷区恵比寿西1-16-3麻仁恵比寿西ビル TEL 03-54458-5842 本庄隆
-----------------------------	--	--	---	--	--	---	---	--



母・校・拝・見

石鹿城址再訪

学び舎を築立って4半世紀。片雲に誘われて石鹿城址を訪ねてみる。改めて探訪すると、その変貌に驚かされる。湖周道路が整備され、新しい門と壁が建築されて、我々が在学していた頃から比べると、大変な変わり様だ。栄華を偲ぶ荒城、というより、全盛時の膳所城の片鱗を垣間見せてくれているかのようである。そんな思いを抱きながら門をくぐってみる。その内は往時の膳所城址が残っていた。湖に抜ける道端に大きな「くすの木」。春爛漫の頃を思いおこさせる桜並木。点在するポプラやメタセコイヤ等々。木々の間から近江大橋が身をくねらせ、頻りにクルマが行き交う。「文を片手にさまよえば」と岸辺に降りて湖を眺める。エリが独特の絵模様を湖の中央へ伸ばしている。白砂青松も護岸工事のため、往時とかなり変わり、やや人工的だ。振り返ってみると木々の間から「天守閣」が見える。膳所公民館の建物が城を模して建てられているのだ。木々の間を歩いてみると、いくつかの詩碑がある。芭蕉、伊藤雪雄といった名前の間に、飯田棹水歌碑という字が見える。

琵琶の水 みづう美ながら 流れをり 膳所の浜べを ゆるへ 洗ひ津 1975年 棹水碑の泥を指で落としてみると、膳所高同窓会の字も読めた。我々の先輩が建立したらしい。

夕暮れともなると公園は幼児を連れた若い母親達から若人達へと人の入れ替えがある。ジョギングする人、散策する人、ベンチにすわって肩を寄せあったまま動かないカップル。暮れなずむ湖にポツリポツリと漁火が見えてくる。近江大橋のシルエットが幻想的に浮かび上がってき、現代と過去が混在し、少年の日の思い出を包みながら、夜の帳のなかに静かに沈んでいく。

(新川 均)



- 上野滋子(東2) ・谷口啓司(膳10)
- 田中美津代(東4) ・佐田葉子(旧大)
- 山田 勲(膳11) ・宮崎美恵(大3)
- 西谷智恵子(東2) ・高橋好乃(東4)
- 花坂多恵子(膳6) ・平井敦子(膳11)
- 服部 章(膳12) ・岩崎則子(膳26)
- 吉田 稔(膳26) ・西川綾子(膳28)



宿泊オリエンテーション

皆さんがご承知のように、今、日本の学校教育は、大きな改革期を迎えています。社会の変化に対応するために、学習指導要領が改訂され、高校も来年度から新しい出発をする事になっています。新しく男子生徒に家庭科が必修になるなどの変更点がありますが、本校の高校教育の基本である自主精神の尊重と自己教育力の育成は不変のものだと確信しています。国際化、情報化社会への対応や、生涯学習社会への対応など、個に応じた学習は、学び方を学ぶことにより養成されると考えています。

在校生も、先輩の皆さんの伝統を受け継ぎ、自らの夢の実現を目指し、教科の学習に励むとともに、班活動においても、体育・文化のそとでその面に、熱心に練習し研究し、近畿の大会・全国大会での成果を立派に発揮しています。高校生としての情熱を注ぎ、懸命に努力する体験は生涯の貴重な思い出となることでしょう。

本校では毎年4月30日に1日遠足が実施されることになっております。但し、1年生だけは4月30日と5月1日の両日に渡って1泊2日の宿泊オリエンテーションが行われます。目的は、教師と生徒、生徒相互間の親睦を図ること、高校生活への適応と充実を図ることにあり、場所は例年、比叡山延暦寺となっております。

さて、今年も延暦寺目指して坂本から歩いて上る予定でしたが、生憎の雨。やむなくケーブルカーを利用してのことになりました。その日は宿坊で、比叡山についての講話や、岡山県止観院住職の今井龍祥先生の「放っておけない心の実践」と題する興味深い講演など聞き、生き方について随分考えさせられました。

翌日はクラス別の取り組みとなりました。植物スケッチ、レクリエーションなどに加えて、座禅、作務など延暦寺ならではの取り組みもありました。

本校に入学して1ヶ月足らずですが、帰路、生徒の顔が少しばかり本校生の顔になっているように思えました。

(中川 淳)



会報JUNGI第3号の発行を、お喜び申し上げます。今年も本校を卒業され、各界・各方面で活躍されている方々に、同窓会で出会わせていただきました。まさに多士済済、いろんなところでお世話になっております。本校の先輩が築きあげられた良き校風・伝統の重みを、身に沁みて感じ、皆さんの後輩を立派に育成する責任を考えながら毎日を送っています。

校長あいさし
膳所高等学校校長 南池宜樹

宿泊オリエンテーション



今年度も各班で活発な活動が行われています。その中で、この夏のインターハイと文化部の各種全国大会で活躍した選手を中心に報告しましょう。

- ・漕艇班 池田真美子 女子シングルスカル 4位
- ・剣道班 田村 佳代 個人戦 ベスト32
- ・ヨット班 糸井 充 男子FJ級
- ・萩原 洋作
- ・森橋由起子
- ・山岸 容子 女子FJ級 4位
- ・山岸 裕美 個人型出場
- ・空手班 森田 裕美 個人型出場
- ・放送班 第40回NHK杯全国高校放送コンテスト 創作ラジオドラマ部門 5位入賞 創作テレビドラマ部門 5位入賞
- ・カルタ班 第15回全国高等学校 小倉百首カルタ選手権大会出場



●子鳩乳児院へ寄付 膳所高生徒会
大津市の膳所高生徒会は25日、同市錦織1丁目の子鳩乳児院に、学園祭での模擬店の売り上げ89,732円を寄付した。同校生徒会は毎年、学園祭での収益を県内の各施設に贈っている。同乳児院では、子供たちの日用品の購入などにあてるといふ。

平成5年9月26日 京都新聞より

●編集後記

●キンモクセイの香りが季節を感じさせてくれます。

●第3号も爽やかにお届け致します。これからも、いい広報が出せませう様、皆様広告もご協力ください！(M)

●例年になく冷夏であった本年、米の凶作や不景気の風が吹いています。私達の同窓誌第3号はさわやかに出来上がりました。

●皆様のお声をおきかせください。(S・U)

●慌ただしい毎日の中、さわやかな空気を胸一杯に吸いこんで“文化の秋”を満喫したいものです。(N)

●恩師訪問は部員3人で、先生方のお人柄個性豊かなお考え等お伝えする様頑張っています。(S)

●特集、読まれているでしょうか。いや読んでない？ もっと反響がほしいですね。(H)

創立100周年への道程

明治31年(1898年)4月1日、滋賀県第二尋常中學校創立。同5月13日、福垣末松初代校長により開校式挙行。80周年記念誌冒頭の本校沿革史を基にして数えてみると、平成10年(1998年)の年度当初で満100年ということなり、残すところ後4年と8ヶ月となります。名門膳所の名に恥じめ100周年の節目を、後世に継承するに相応しい歴史と伝統の文化遺産を創造するための亦と無いもの機と捉えて、よりよき発展への基礎を固めてゆきたいものであります。

●学校側としては、学校長を初め職員12名で構成する学校側として、この2学期初め設立し、100周年企画準備委員会を、この2学期初め設立し、9月8日に第1回準備委員会を開催し、正副の委員長。委員会の性格、目標確認。当面、県内外の経他役員組織、委員会のための研修資料を蒐集すること、除から必要な知識を得るための研修資料を話し合い、同窓会やPTA等への要望事項等をまとめて、年度内には実行委員会へ移行してゆくこと等の懸案事項を話し合いました。

●要項事項等の具体化までもう少し日数を要しますが、今後のご協力をよろしくお願い致します。(藤田健三)